

令和4年度 全国学力・学習状況調査結果の概要

足寄町立足寄小学校

4月19日に行われました本調査の結果が公表されました。北海道教育委員会教育長は、本年度の結果に令和4年度全国学力・学習状況調査は、例年実施している国語、算数・数学に4年ぶりに理科を加えて実施され、本道の状況は、小学校のすべての教科で全国の平均正答率との差が縮まるとともに、小学校の理科、中学校の国語と理科の3教科で全国の平均正答率とほぼ同水準となるなど改善の傾向が見られます。

○各市町村教育委員会及び学校では、新型コロナウイルス感染症の収束の見通しが立たない中、子どもたちの学びを保障するため感染症対策と教育活動の両立に向けて最大限に御尽力され、家庭、地域と連携を図りながら、校長のリーダーシップによる検証改善サイクルの充実や主体的・対話的で深い学びの実現に向けた組織的な授業改善、望ましい生活習慣の確立などを着実に進めていただいております。一定の成果として現れてきつつあるものと受け止めています。

○今後も、北海道に住む子どもたちが、確かな学力を身に付け、一人一人が自分のよさや可能性を伸ばすことができるよう、小学校と中学校が連携した取組を一層充実させ、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現するためのICTの活用を含めた授業改善や、学校、家庭、地域の連携協働による望ましい学習・生活習慣の確立、少人数学級編制の拡大、小学校高学年における教科担任制の推進など、本道の子どもたちの教育にかかわるすべての人たちが一体となった学力向上の取組を引き続き進めてまいります。教育関係者や保護者の方々はもとより、広く道民の皆様のご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。とコメントを出しております。

足寄小学校では、この調査結果に基づき、全国・全道との比較において本校児童の学力の傾向や学習、生活の状況を分析し、学習指導の改善や学力向上の取組に努めてまいります。

《調査の概要》

◆調査内容

1 教科に関する調査（国語、算数、理科）

- (1) 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- (2) 知識・技能等を実生活の様々な場面において活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

2 生活・学習習慣などの学習状況に関する調査

◎学習意欲や学習方法、学習環境および生活の諸側面に関する質問紙調査

◆◆ 教科に関する調査結果より ～全国・全道平均と比べると～ ◆◆

国語 ～特に「書くこと」の領域に課題がみられます～

- 全国平均・全道平均より下回っています。

算数 ～「思考力・判断力・表現力」の項目で課題がみられます～

- 全国平均・全道平均より下回っています。

理科 ～「思考力・判断力・表現力」の項目で課題がみられます～

- 全国平均より下回ったが、全道平均と同様の値である。

■生活習慣や学習環境に関する児童質問紙調査結果

(数値は「当てはまる・どちらかといえば当てはまる」を選択した児童数の割合)

主なよい傾向と課題 ○:よい傾向 ●:課題	本年度数値			全道差	全国差
	足寄小	全道	全国		
○先生がよいところを認めてくれる。	90.6	85.2	87.1	5.4	3.5
●将来の夢や目標を持っている。	78.1	78.5	79.8	-0.4	-1.7
○人が困っているときは、進んで助ける。	93.7	88.8	88.9	4.9	4.8
○人の役に立つ人間になりたい。	96.9	94.7	95.1	2.2	1.8
●平日、家庭で一日1時間以上勉強している	56.2	56.6	58.4	-0.4	-2.2
●1日当たりの読書時間(全くしない)	34.4	28.6	26.3	-5.8	-8.1

【全国と比較して】

○学校の教育活動の中や家庭で、認められている(自己有用感)と感じている子供が多いです。

また、社会や集団生活等でルールを守ろう(社会規範)としている子供が多いです。

●家庭学習の時間は全道・全国平均に近い数値である。

●読書をしない子どもの数が全道・全国平均と比べて多いです。

⇒この現状を見ると、学力向上のためには、学校での取組はもちろんですが、家庭学習や読書の励行など家庭のご協力が必要になるかと思えます。

◆学力向上に向けて足寄小学校で、主として取り組んでいること◆

○基礎的・基本的な内容の確実な定着(読み・書き・計算の繰り返し学習など)

○指導方法の工夫・改善(1時間の授業の基本的な流れ、板書の工夫、ノート指導など)

○学習規律「学習の心がまえ」や約束事の徹底(えんぴつの持ち方、正しい姿勢など)

○学習支援員と連携した複数の目によるきめ細かな学習指導

○学習意欲の喚起(認める、励ます、ほめるなど)

○ICT《情報機器》の効果的な活用

○職員研修の充実(主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善)

◎さらに、「こども園、小学校、中学校との連携」を視野に、地域の教育力を活用しながら、子どもの能力向上や生活・学習習慣の改善に向けた取組を進めていきたいと考えています。

⑨ 調査の目的や結果は学力の特定の一部であり、学校の教育活動の一側面です。